

地域コミュニティー再生に、生協の力を

コープあいちの組合員22人、職員11人は、岩手県陸前高田市で8月7日に行なわれた「うごく七夕まつり」に参加しました。コープあいちでは、準備の段階から祭りに関わり、何度も現地へ足を運び、当日を迎えました。大阪いずみ市民生協からも当日ボランティアが14人参加し、祭りを盛り立てました。



コープあいちの組合員も参加した「うごく七夕まつり」の様子。

毎年開催される陸前高田市の「うごく七夕まつり」は、800年以上の歴史があるといわれています。

しかし、住民の多くが被災してしまっただけで、祭りの担い手が足りません。そこで、コープあいちでは、準備の段階から、何度も現地へ足を運び、祭りの運営に協力してきました。当日は、大阪いずみ市民生協などとも協力

し、炊き出しなどを行ないました。

コープあいち東日本被災地支援担当の岩本隆憲さんは、「山車の飾り付けや祭囃子の練習など、お祭りの準備には時間がかかり、また、それぞれの人に役割が与えられています。実はその準備の中にこそ、地域のつながりを深める大きな力があることに気付かされました。あいちからの参加者は皆、地

域の方と一緒に祭りを楽しんでいました。生協は、一人ひとりの組合員の思いや願いが、まとまった力となって発展してきました。被災地でも、個と個の思いがつながり、まとまる力へ発展していこうとしています。こうした流れの中で、生協ができることはたくさんあるのかもしれない」と話していました。

宅配のセンターで、復興夏祭り開催

震災から1年5カ月目の8月11日、石巻市開成地区にあるみやぎ生協石巻支部で「復興夏祭り」が開催され、多くの人でにぎわいました。



地元のサッカーチーム「ベガルタ仙台」のチアリーダーの演技指導など、盛り上がるイベントが盛りだくさん。

開成地区には、7月1日現在、14の仮設住宅が建ち、1,412戸、2,902人の方が暮らしています。

「復興祭り」当日は、周辺の仮設住宅に住む方々をはじめ、地域の組合員や職員らが大量集まり、ステージで繰り広げられるパフォーマンスや屋台コーナーでの買い物、人形すくいゲームなど、楽しい1日を過ごしていました。

ステージでは、みやぎ生協職員の誘

いで参加が決まった「女川潮騒太鼓轟会」の復興太鼓が演奏されたり、元みやぎ生協職員でシンガーソングライターの砂野博明さんが熱唱したりしました。また、元みやぎ生協地域理事の遠藤信子さんが事務局を務める「牡鹿エコたわし工房海だより」が作成したエコたわしの販売があったりなど大賑わいでした。

「今回の夏祭りの特徴は、出演者や出

店者の多くが支部や職員のつながりで参加していること」と石巻支部支部長の斎藤則男さんは言い、次の言葉を継ぎます。「復興中の石巻はいま、一度散り散りになった地域が仮設住宅で一緒になったり、また離れたりしている状態にあります。生協が、人と人の縁を通じて、そうした地域の輪をつなぎとめることもできるのではないかと思います」